

<巻頭言>

「考える力」を磨き，新たな価値創造へ



取締役社長 **奥村 英樹**
Hideki Okumura

環境・エネルギー分野を取り巻く事業環境は，これまでにないスピードで変化している。

カーボンニュートラルの実現，資源循環の高度化，デジタル化の進展など，私たちに求められる役割はますます広がり，かつ複雑化している。そのような中で，企業として持続的に成長し，社会に価値を提供し続けるためには，技術力そのものに加えて「考える力」の重要性がこれまで以上に大きくなっていくことを感じる。

当社グループはこれまで，水処理・廃棄物処理・プロセス機器といった分野で技術を磨き，お客様，ひいては社会課題の解決に取り組んできた。私たちの事業は人々の暮らしや産業活動を支える社会基盤そのものと言える。しかし，社会課題は一層多様化し，要求水準も高まっている中，単に既存技術を適用するだけでは，これからの時代に十分とは言えない。その中で必要なのは，前提を疑い，本質を見極め，新たな解を導き出す力，すなわち「考える技術」である。

現場に目を向けると，日々の業務の中で多くの判断が行われている。忙しさの中で，過去のやり方や前例に頼ってしまうこともあるかもしれない。しかし，本当にそれが最適なのか，「なぜそうするのか」を一人ひとりが自分の言葉で説明できるか。この積み重ねが，組織としての力の差につながっていく。私は，すべての社員に対して「一度立ち止まって考えること」を大切にしてほしいと考えている。

また，よく考え，本質を探究する姿勢は個人だけで完結するものではなく，異なる専門性や視点を持つ仲間と議論し，お互いに問いを投げかけることで，より良い答えに近づくことができる。

本技報に掲載された各論文・報告は，そうした試行錯誤の成果であり，まさに「構想力」，「創造力」の結晶と言える。それぞれの取り組みが，現場の課題から出発し，新たな価値創出へとつながっていることに，心強さを感じている。経営としても，風通しが良く，率直に意見を交わせる環境作りに加えて，挑戦を後押しし，失敗から学ぶことのできる組織風土の醸成に引き続き取り組んでいく。

社会からの期待は決して小さくない。だからこそ，私たちは自ら考え続けなければいけない。一人ひとりの思考と挑戦の積み重ねが，当社グループの未来を切り拓き，ひいては持続可能な社会の実現に寄与すると信じている。

本技報に込められた知見と挑戦が，当社グループの技術力を更に高め，新たな社会価値創出につながっていくことを期待している。